

CentreCOM® 9006SX/SC リリースノート

この度は、CentreCOM 9006SX/SC をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、付属のマニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.4.0J

2 オペレーションマニュアルについて

ソフトウェアバージョン2.4.0Jで、オペレーションマニュアルが「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル(J613-M0521-00 Rev.A)」というAT-S24/AT-S26ソフトウェア搭載製品共通のマニュアルに改版されました。本バージョンにおける最新の情報については、このマニュアルを参照してください。

また、このマニュアルは弊社ホームページに掲載されていますので、同梱のマニュアルが「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」でない場合は、そちらをご覧ください。

初期バージョン以降、どの機能がどのバージョンで追加されたかは、vページ「追加機能と対応ソフトウェアバージョン」に記載されています。

「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」へのリンクはこちら：
<http://www.allied-telesis.co.jp/support/9006sx/manual.html>

3 メニューから削除された項目

ソフトウェアバージョン2.2.1Jから2.4.0Jへのバージョンアップにおいて、以下の項目が削除されましたので、ご了承ください。

3.1 マルチキャストアドレスの追加/削除について

[MAC Address Table] メニューの [Multicast address] において、[Add MAC address]、および [Delete MAC address] オプションはメニューから削除されました。

4 本バージョンでの制限事項

4.1 マルチプルVLANについて

 **参照** 「AT-S24/AT-S26 オペレーションマニュアル」2-102ページ

マルチプルVLANモードにおいて、拡張モジュールをスロットAとBの両スロットに搭載した場合、スロットBのポートが使用不可となります。(802.1QタグVLANモードにおいてはこのような制限はありません。)

5 注意事項

5.1 1000BASE-X ポートについて

- 1000BASE-X ポート同士の通信において (AT-A15 同士のカスケード接続、CentreCOM 9006SX/SC 同士のカスケード接続、AT-A15 と CentreCOM 9006SX/SC のカスケード接続)、ソフトウェアバージョンの組合せによっては、正しく通信できない場合があります。1000BASE-X ポート同士の通信を行う場合は、必ずスイッチ本体を以下に示すソフトウェアにバージョンアップしてからご使用ください。

CentreCOM 8216FXL/SC : バージョン **2.0.0J** 以降
CentreCOM 8224XL : バージョン **1.2.12J** 以降
CentreCOM 9006SX/SC : バージョン **1.0.5J** 以降

- 本製品は、[Port status and configuration] メニュー内において、1000BASE-X ポートの通信モードを [Half duplex] に設定することが可能です。ただし、1000BASE-X ポートの場合、本製品出荷時点で他の検証機器がないため、本製品同士、および弊社 AT-A15、CentreCOM 8216XL との検証のみを実施しています。
- 通信になんらかの問題が発生した場合は、光ファイバーケーブルの抜き差しを行うようにしてください。また、光ファイバーケーブルの抜き差しは、必ず TX と RX の両方を行ってください。